

「誰もが暮らしてみたい田園産業都市」と「日本一安心して誰もが住み続けたいまち」の実現を目指して

北海道の石炭と鉄道の発祥の地

三笠市は空知地方の南部、北海道のほぼ中央に位置しています。豊かな森と湖に恵まれ、道央主要都市に近い良好な環境を持つ本市は、北海道の石炭と鉄道の発祥の地として栄えた歴史あるまちです。また、「エゾミカサリユウ（国の天然記念物に指定）」「アンモナイト」をはじめとした多くの化石を産する、地質学的にも重要な地域といわれています。

明治元年（1868年）に、幌内（ほろない）で燃える石「石炭」の炭層の露出面が発見され、明治12年（1879年）、幌内炭鉱が開坑されると、わかには人の往来が盛んになり、明治15年（1882年）6月に、本市の前身となる市来知村が開村し

ました。このときが本市の歴史の始まりです。

この年の6月に、北海道開拓を目的として空知集治監（現在の刑務所）が市来知に設置され、11月には幌内炭坑から掘り出された石炭を輸送するための鉄道が、幌内と手宮（小樽）間に北海道で最初（全国で3番目）に開通しました。



昭和35年（1960年）に建築された「住友別炭鉱立坑槽（すみともぼんべつたんこうたてこうやぐら）」

明治19年（1886年）には

幾春別炭坑が開坑し、以後石炭のまちとして栄えてきました。昭和32年（1957年）には桂沢ダムが完成し、湖が誕生。その桂沢湖周辺からはアンモナイトやエゾミカサリユウなどの化石が発見され、化石のまちとしても注目を集めています。現在ではこの歴史の特性を生かし、観光客などの誘致を行っています。

三笠高校を中心とした食街道づくり

平成24年4月に北海道三笠高校が道立から、食物調理科単科校として市立化し、平成30年7月には三笠高校生レストラン「MIKASA COOKING ESSOR」がオープンし、多くの観光客を呼び込んでいます。高校生レストランでは料理



三笠の夏の一大イベント「三笠北海盆おどり」

の提供のみならず、料理・製菓コンクールを開催しており、全国に本市をPRすることができていると実感しています。また、三笠高校生は毎年、調理・製菓の各種コンクールにチャレンジし、全国優勝を果たすなど、輝かしい成績を取っており、市民に元気を与えてくれています。全市を挙げて高校生レストランを中心とした食による交流人口の増加に努めています。

また、三笠高校の卒業生が地域おこし協力隊として本市に戻り、



三笠高校生レストラン「MIKASA COOKING ESSOR」

市内でカフェを開業し、今やそのカフェは市民の憩いの場となっています。このように、三笠高校の卒業生が回帰し、まちづくりに貢献していただけることは、まちに大きな活力を与え、市民に元気を与えていると考えられています。

ジオパークの推進

まちの活性化を図る目的で、市内に現存する特質ある地域資源のさらなる活用を目指すため、市内全体を対象とした「三笠ジオパーク」の取り組みを実施しています。平成25年に日本ジオパークに認定されて以来、三笠ジオパークの認知度が上がり、年々入込客数が増加傾向にあります。学校教育と連携した教育活動の充実や学習旅行の誘致、ジオパーク要素と地域資源を融合した体験型ツアーなどの実施のほか、日本遺産に認定された空知地方の歴史や風土を十分に活用し、ジオパークの効果をより発揮できるよう努めています。そして、平成29年に日本ジオパーク

の再認定を受け、今後一層の飛躍を目指し、取り組みを進めます。

農業の活性化とイオン農場の運営

平成25年に北海道で初めてイオン農場（イオンアグリ創造（株））が開場し、メロン・すいか・きゅうりなどの栽培を行っています。また、平成28年からはイオン農場での「フードアルチザンツアー」が開催され、東京・名古屋・大阪などからの来訪者にメロンの収穫体験や市内で取れた食材による食事の提供など、本市の魅力を伝え、観光農業としての取り組みによる交流人口の増加に努めています。

また、本市の農業の問題点として、担い手不足による遊休農地の増加や伝統作物の作付面積の減少などが挙げられます。このような問題点については、イオンアグリ創造の進出により、改善傾向にあります。具体的には、イオン農場の開場に伴う地域農業の活性化により、担い手が確保され、伝統作物の生産量が拡大している状況にあります。また、本市で取れた食材をイオングループの店舗で販売していただくことで、販路の拡大

による市特産物のPRにつながっていると感じています。

石炭地下ガス化の研究推進

本市には未利用の石炭が約7億tあるとされています。室蘭工業大学と連携し、この地下資源を有効活用する取り組みを推進しています。これは未利用石炭の有効活用を図ることで、エネルギーの地産

地消や新たな産業の創出などにより、地域活性化につなげることを目的としています。この石炭地下ガス化の仕組みですが、石炭層を直接燃焼させることにより、加熱された周辺の石炭層から発生する生産ガスを回収するというものです。海外では商業化されており、国内での実用化を目指し、取り組みを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 305・52km²
- ◆ 人口 8318人
- ◆ 世帯数 4809世帯

〔将来都市像〕誰もが暮らしてみたい田園産業都市、日本一安心して誰もが住み続けたいまち

〔まちの特徴〕豊かな森と湖に恵まれ、道央主要都市に近い良好な環境を持ち、北海道の石炭と鉄道の発祥の地として栄えた歴史あるまち

〔特産品〕メロン、すいか、きゅうり、玉ねぎ、家具、米、ワイン



三笠市長
西城賢策



〔観光〕三笠ジオパーク、三笠鉄道村（トロッコ鉄道・クロフォード公園）、ファミリールランドみかさ遊園、三笠高校生レストラン「MIKASA COOKING ESSOR」、道の駅三笠

〔イベント〕みかさ梅まつり、三笠北海盆おどり、みかさ桂沢紅葉まつり、冬のイルミネーションイベント

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

日本一の水揚げ金額と豊かな地域資源を活かし、成長する水産文化都市 焼津

温暖な気候と
うまい魚のある暮らし

焼津市は、静岡県の中央に位置し、東京と名古屋のほぼ中間にあります。日本一深い駿河湾に面し、南には大井川が流れ、晴れた日には美しい富士山を眺めることができます。



日本一の水揚げ金額を誇る「焼津漁港」

市内には、JR 東海道線の焼津駅、西焼津駅の2駅、東名高速道路には焼津インターチェンジ、大井川焼津藤枝スマートインターチェンジがあり、富士山静岡空港からは市域のほとんどが20km圏内に位置して

り、スムーズに移動できるアクセスの良さが自慢です。

また、年間平均気温が16・5℃と温暖な気候で、雨の日が少なく、雪もほとんど降りません。冬でも暖かな日差しが降り注ぎ、1年を通して非常に過ごしやすい地域です。

本市は水産業を基幹産業として発展してきました。市内には約6300余の事業所があります。日本屈指の漁港である焼津漁港は、水産業の振興上、特に重要な漁港として全国に13港ある「特定第3種漁港」の一つに指定されており、水揚げ金額は全国一を誇ります。特に「カツオ」や「マグロ」の水揚げが有名で、「焼津さかなセンター」には新鮮な魚を求めて年間約175万人の方が訪れています。また、市内には「やいづ黒潮温



JR焼津駅前広場の足湯「やいづ黒潮温泉」

泉」もあり、おいしい食べ物と温泉を楽しむため、1年を通じて多くの観光客が訪れています。

子育て施策にAIを導入

このように豊かな自然の恵みと力強い産業基盤に支えられた本市においても、全国と同様に人口減少対策は喫緊の課題であり、特に

子育て世代や若者を対象に多くの施策を進めてきました。

平成21年度に他市に先駆け中学生までの医療費助成を実施し、平成29年度からは対象を拡大し、高校生までの医療費無償化を行っています。

また、子育て世帯のさまざまな相談に丁寧に応えるため、平成28年度に「子育てコンシェルジュ」を配置し、専門員が相談者に寄り添い、真摯な対応を始めました。

これに加えて、平成30年度には、市の子育てに関する事業や制度の情報を一元化し、市ホームページとLINEからの問い合わせに24時間365日いつでもAIが自動で答えることができる「AIチャットボット」の導入に全国でも先駆的に取り組みました。

AIチャットボット導入に当たり、平成30年3月に「ICTの活用による地域活性化等に関する連携協定」を締結したNTT西日本と協力し、試行錯誤を重ねながら調整を進めてまいりました。ま



クレーンを使った「ミナミマグロの水揚げ」

た「子育て分野」という非常に多岐にわたる内容のFAQ（よくある質問）を整理するため、19課の業務から質問項目を作成し、庁内での試験運用を行った後、平成31年1月から市民向けにサービスを開始しました。

開始までには大変な苦勞がありました。AIチャットボットでの問い合わせデータを分析し、子育て世代のニーズ把握とともに、利便性を向上させるための改良を重ね、令和元年11月末時点で2697件のLINEの有効登録と、累計で7万7370回の利用につなげることができました。また、利用数の約50%が市役所閉庁時間帯であったことから、いつでも利用できる問い合わせ窓口として市民サービスの向上につながっている

と考えており、さらなる利便性の向上のために対象分野を拡大し、令和3年度の市役所新庁舎の開庁時にはAIチャットボットで総合的な行政サービスの案内ができるように準備を進めています。

こうしたソフト施策に加え、土地区画整理事業などによる、良好な住環境整備も併せて進めてきた結果、多くの子育て世代が転入し、平成30年度は8年ぶりに転入者が転出者を上回る社会増となりました。

笑顔あふれる暮らしのために

今後は、焼津駅周辺を含む中心市街地エリアの活性化をより一層進めていく必要があることから、令和元年度に焼津駅前通り商店街に子どもたちが屋内で安全に遊べるための施設として「ターントクルこども館」の建設に着手し、令和3年度には供用を開始する予定です。

また、焼津駅前には、民間事業者による再開発事業が計画されていることや、令和3年度に、市役所新庁舎が開庁することで、焼津駅前ターントクルこども館、市役所を結ぶエリアが、官民の力により、大きく生まれ変わること

なります。

このほか、人生100年時代を迎え、市民の誰もが心身共に健康で笑顔あふれる幸せな暮らしを送ることができるよう、おおむね50歳以上の方を「新元氣世代」とし、健康維持だけでなく、趣味や生きがいづくりを総合的に支援する「新元氣世代プロジェクト」を進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 70・31km²
- ◆ 人口 13万9429人
- ◆ 世帯数 5万7773世帯

〔将来都市像〕やさしさ 愛しさ いもの いっぱい 世界へ広げる 水産文化都市 Y A I Z U

〔まちの特徴〕冬季の降雪もまれな温暖な気候、海・山・川の自然環境、世界遺産富士山を望む美しい景観、交通の利便性などに恵まれたまち

〔市町村合併〕平成20年11月1日、大井川町を編入合併



焼津市長
中野弘道



〔特産品〕焼津ミナミマグロ、カツオ、サバ、シラス、桜えび、つくだ煮、かつお節、黒はんぺん、なると

〔観光〕焼津さかなセンター、やいづ黒潮温泉、花沢の里、ディスカバリーパーク焼津

〔イベント〕焼津みなとまつり、踊夏祭（おどらっかさい）、焼津神社大祭、焼津海上花火大会、小川港さば祭り、虚空蔵尊春季大祭・だるま市、藤守の田遊び

将来にわたり持続可能なまちをつくるため、歴史や伝統文化、産業など焼津の豊富な地域資源をしっかりと次世代へ引き継ぐとともに、時代の流れをしっかりと見極めながら、誰もが笑顔で心豊かに暮らすことができるまちになるよう、市民・事業所・各団体の皆さまと行政が力を合わせて未来を切り開いてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。